

# つくば市中心部における学習塾の分布とその規定要因

細谷美紀（地球科学専攻）

## 1. 目的

本研究では、つくば駅と筑波学園駅周辺における学習塾の分布と属性を調査し、その規定要因と相違点を明らかにすることを目的としている。なお、学習塾は教科教育を行い、かつ学校教育法に規定されていない有償の施設と定義する。

## 2. 研究対象地域

本研究ではつくば駅および筑波学園駅から半径 1.2km 以内の範囲を研究対象地域とする。これはつくば駅を囲む東大通りと西大通り、南大通り、北大通りの内、最も離れている南大通りとの距離を半径としたもので、筑波学園駅周辺との比較のために定めた範囲である。

## 3. 研究方法

まず「賢早くん」および「AG2KML」を用いて、つくば市における学習塾の位置状況を事前に把握する。次に現地調査を行い、営業が確認されたところに限り、属性（対象者、規模、授業形態、経営者、分室の有無等）をノートに記録した。加えて、フィールドワークでは得られなかった情報を、インターネットを用いて調べた。次に、政府統計（e-Stat）の小地域（つくば市）および国土地理院の土地利用データをベースマップとして、塾の位置と属性データの入力を行い、分布図を作成する。分析に際して、国土数値情報の公共施設分布と、統計局の人口統計（5歳階級）を用いた。

## 4. 結果・考察

現地調査の結果、つくば駅周辺には 34、筑波学園駅周辺には

8 の学習塾が存在していた。塾の分布数が異なる要因は、つくば駅付近が万博開幕（1985 年）以前から交通の拠点として開発されており、他方筑波学園駅周辺は、つくばエクスプレスの開業（2005 年）を機に開発が進められた地域であるからだと考えられる。そのため、つくば駅周辺では個人経営塾が 31% であるのに対し、筑波学園駅周辺では 0% であった。また、前者では学生の求人が 29% であるのに対し、後者では 63% であった。次に、周辺の学校教育機関との関連性について検討する。研究対象地域周辺における各学校の分布は、図の通りである。属性検索を用いて、各対象者に該当する学習塾を抽出した（表）。加えて、対象者を類型化したところ、「幼・小・中」向けと「小・中・高」向けに差異が見出された（図）。前者は学校教育機関から比較的離れて立地するのに対し、後者は特定の場所に集中する傾向にある。つくば駅周辺の場合、各学校との近接性や送迎バスの活用等により、学習塾の集中地域が形成されている。一方、筑波学園駅周辺では、駅前という特性上チェーン展開する学習塾が、遠方の集客も見込んでいると考えられる。なお、筑波学園駅周辺では学齢期の人口増加が著しいため、今後は学校教育機関とともに、多様な学習塾が進出する可能性が高い。

表 つくば駅および筑波学園駅周辺における学習塾の分布（各対象者別）

	幼	小	中	高	大	学習塾総数
筑波学園駅周辺の学習塾	0(0)	7(88)	6(75)	6(75)	0(0)	8
つくば駅周辺の学習塾	6(18)	25(74)	26(77)	22(65)	4(12)	34
計	6	32	32	28	4	42

注1) 「幼」は幼稚園生、「小」は小学生、「中」は中学生、「高」は高校生、「大」は大学生以上の対象者を示す。

注2) ()は割合を示す。

(現地調査より作成)

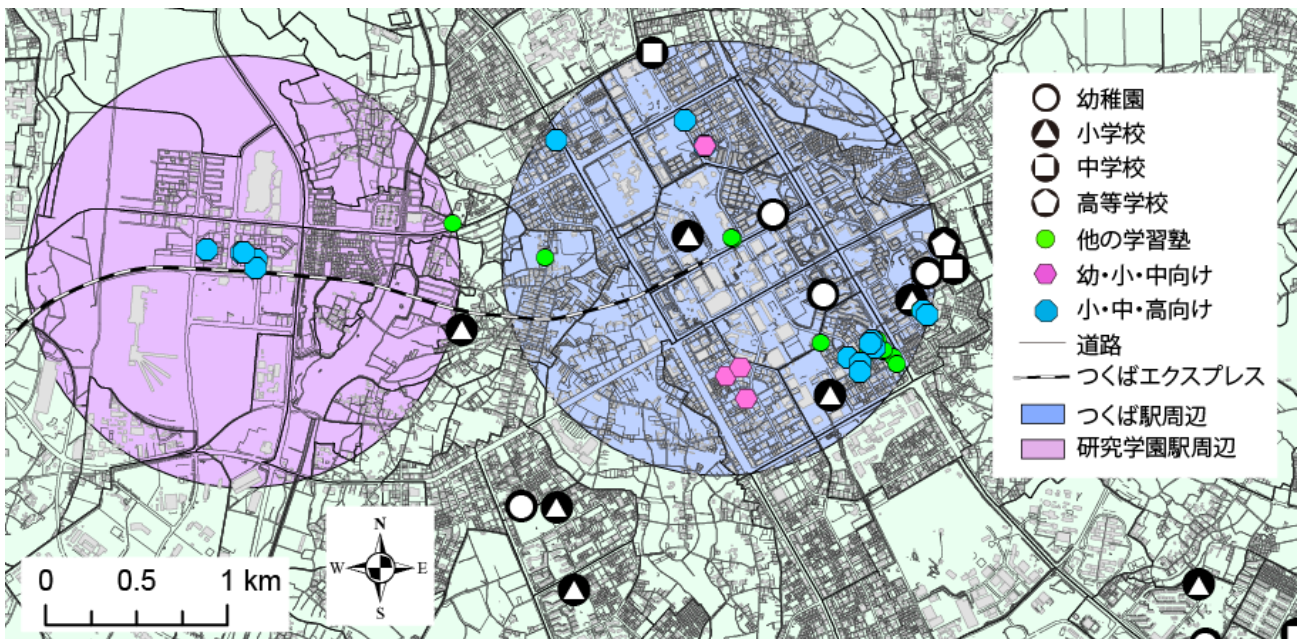


図 つくば駅と筑波学園駅の周辺における学習塾の類型別分布

(現地調査より作成)